

# 第2章「特別の教科 道徳」の進め方

## 1 特別の教科 道徳



(1) 道徳科の目標  
って何だろう？

道徳科の目標は、道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度の育成です。



道徳科の目標は、学校の道徳教育全体を通じて行う道徳教育の目標と同様に、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことです。

道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり、道徳教育は道徳性を構成する諸様相である道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度を養うことが求められています。

### 道徳的判断力

様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する能力

### 道徳的心情

道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情

### 道徳的実践意欲と態度

道徳的心情や道徳的判断力によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性

### 道徳性

行動・ことば

道徳的習慣・道徳的行為

こころ

道徳的判断力  
道徳的心情  
道徳的実践意欲と態度

### 「特別の教科 道徳」の目標

道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。（ ）は中学校

道徳性の諸様相には、特に序列や段階があるということではありません。一人一人の児童生徒が道徳的価値を自覚し、自己（人間として）の生き方についての考えを深め、日常生活や今後出会うであろう様々な場面、状況において、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質を意味しています。

道徳性を養うことを目的とする道徳科においては、その目標を十分に理解して、教師の一方的な押しつけや単なる生活経験の話合いなどに終始することのないように特に留意し、それにふさわしい指導の計画や方法を講じ、指導の効果を高める工夫をすることが大切です。道徳性は、徐々に、しかも着実に養われることによって、潜在的、持続的な作用を行為や人格に及ぼすものであるだけに、長期的展望と綿密な計画に基づいた丹念な指導がなされ、道徳的実践につなげていくことができるようにしなければなりません。

※よりよく生きていくための資質・能力を培うという趣旨を明確化するため、従前の「道徳的実践力を育成する」ことは、具体的に「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」と改められました。



(2) 道德科ではどのような学習をするのだろうか？

道德的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の生き方（人間としての生き方）についての考えを深める学習をします。（ ）は中学校。



### 道德的諸価値についての理解を基に

道德的価値とは、よりよく生きるために必要とされるものであり、人間としての在り方や生き方の礎となるものです。学校教育においては、これらのうち発達の段階を考慮して、児童生徒一人一人が道德的価値観を形成する上で必要なものを**内容項目**として取り上げています。

道德的価値について理解するとは、道德的価値の意味を捉えること、またその意味を明確にしていくことです。

ふだんの生活においては分かっていると信じて疑わない様々な道德的価値について、学校や家庭、地域社会における様々な体験、道德科における教材との出会いやそれに基づく他者との対話などを手掛かりとして自己との関わりを問い直すことによって、本当の理解が始まります。指導の際には、特定の道德的価値を絶対的なものとして指導したり、本来実感を伴って理解すべき道德的価値のよさや大切さを観念的に理解させたりする学習に終始することがないように配慮することが大切です。

### 自己を見つめる

道德科の学習では、道德的価値を**自分のこととして考えたり感じたり**することが大切です。児童生徒が、これまでの自分の経験やそのときの考え方、感じ方と照らし合わせながら、更に考えを深めていきます。このような学習を通して、道德性を養うことの意義について、児童生徒が、**主体的に考え、理解できるように**することが大切です。

### 多面的・多角的に考える

よりよく生きるための基盤となる道德性を養うためには、児童生徒が多様な考え方や感じ方に接することが大切です。児童生徒が人としての生き方や社会の在り方について、多様な価値観の存在を前提にして、**教材や他者、自分自身との対話的な学習**を通して、物事を多面的・多角的に考えることが求められます。

### （小学校）自己の生き方についての考えを深める

道德的価値の理解を基に自己を見つめるなどの**道德的価値の自覚を深める**過程で、同時に自己の生き方についての考えを深めています。その際、例えば、児童が道德的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止められるようにすることや、他者の多様な考え方や感じ方に触れることで身近な集団の中で自分の特徴などを知り、伸ばしたい**自己を深く見つめられるように**することが大切です。あわせて、これからの生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現していこうとする**思いや願いを深める**ことができるようにすることも求められます。

### （中学校）人間としての生き方についての自覚を深める

人間としての生き方についての自覚は、人間とは何かということについての探求とともに深められるものです。人間についての深い理解なしに、生き方についての深い自覚が生まれるはずはありません。言い換えれば、人間についての深い理解と、これを鏡として行為の主体としての**自己を深く見つめることとの接点に、生き方についての深い自覚が生まれて**いきます。そのことが、主体的な判断に基づく適切な行為の選択や、よりよく生きていこうとする道德的実践へつながっていきます。このような視点に立って、生徒が**人間としての生き方について考えを深められるように**様々な指導方法の工夫が求められます。